



講演する胡さん

中国残留孤児や養父母を支援する中国ハルビン市の「日本人遺孤養父母聯誼会」の胡曉慧会長（76）が2日、阿智村駒場の満蒙開拓平和記念館を訪問した。夜には飯田市錦町のホテル弥生で講演会も開き、また身元が証明できない残留孤児や生活に困窮している中国人養父母への支援の必要性を訴えた。

講演会で胡さんは 現在も赤十字病院の養父母連絡会の設立 医師として活躍するへの思いを語った。 胡さん。中国では息子や娘が年老いた父母の面倒をみるのが一般的だが、日本人孤児を育てた養父母は育てた子供が帰国してしまいい、孤独で生活が困窮している状態にある

た。 胡さんは残留孤児や養父母を支援しようとして1984年に市民団体の残留孤児養父母連絡会を設立。91年には聯誼会へと

中国養父母の存在知って

胡会長 飯田で支援の必要性訴え

発展させ、残留孤児の親族探しのサポートや帰国者と養父母の交流、養父母の支援などを続けてきた。また戦争で捨てられた日本人の子供、他人の子供、日本人の子供を引き取って育てた情け深い養父母たちを尊敬している。戦争により孤児が生まれ、日本人も可憐会長、小林勝人理事長が歓迎。訪問して以来、同講演会に満蒙開拓平和記念館を訪問した。胡さんらは2013年6月に満蒙開拓平和記念館を訪問して以来、同講演会に満蒙開拓平和記念館を訪問した。胡さんらは2013年6月に満蒙開拓平和記念館を訪問して以来、同講演会に満蒙開拓平和記念館を訪問した。

供たちを救った養父母の存在を広め、中国人の人道主義、博愛の精神を伝えようと養父母展を開催するなどの活動も行って

中国人も皆が不幸になつた。戦争が拓についての歴史を学んだ。また、清水会長が3年前の現地案内や日本の養父母展の開催、養母の李淑蘭さんらを招いての



満蒙開拓平和記念館も見学する

講演なども行って来日した。前日には、新潟市で日本に永住帰国した残留孤児の生活や行政の支援策などを調査。飯田滞在後の3日にイベントが行われる東京へ向かった。